



KANSAI
UNIVERSITY



CTL

Kansai University Center for Teaching and Learning

Newsletter

関西大学 教育開発支援センター
ニュースレター

March 2018

vol. 26



アクティブラーニング型 教室の充実を！

教育推進部准教授 岩崎 千晶



学生にとって能動的な学習（アクティブラーニング）を推進することが求められている。アクティブラーニング型の授業では、学生同士の対話、意見のアウトプットが頻繁に行われる。そのため、従来のような固定式の机やいすでは授業を進行するのが少々難しい場合もあり、アクティブラーニング型の授業をしやすい教室を整備する大学が増えつつある。

大学ランキングのアジアで上位に位置するシンガポールの南洋工科大学では、従来の固定式の机といすの教室を減らし、可動式の机やいすを配置し、壁には各グループの意見を映し出すモニタが5, 6つ用意されている。この大学では学習者が主体的に学びやすい環境を整備するために、まず3つの教室をアクティブ

ラーニング型の教室へと改修し、そこで様々な授業を試行的に実施した。そして、取り組みを通して改善点を修正した教室を全学的に広め、現在ではこうした教室を60以上整備している。2017年に訪問した際には、関西大学は10年遅れていると実感して焦った。

また2015年に訪問したハワイ大学のSakamaki Innovation Zoneには3つのアクティブラーニング型の教室があり、教室学習活動がInnovationに関わる活動であればこの教室を利用することができる。教室には可動式の机やいす、ソファ、プロジェクタなどが設置されている。学生が意見交換をする際には、グループごとに円になり話しやすい形にし、学生が発表する際は、発表者を囲むような形で机やいすを並べる。

日本では東京大学がアクティブラーニングスタジオ“KALS”を、九州工業大学はグループワーク向け教室“MILAiS”を整備している。これらの施設では、教室を整備することに加えて、授業をサポートするスタッフも配置されている。ICT機器の利用やグループワークの補助など、学生スタッフや専任の教職員が教員の授業実践を支えている。

関西大学にも学生の学びを支えるために、このようなアクティブラーニング型の教室が必要ではないだろうか。可動式の机やいすに加えて、ICT機器を整備した教室を3つ作るだけでも大学の授業方法は変わるはずである。私は「アクティブラーニング型の教室が欲しい!」。この声に賛同してくれる方はいらっしゃいますか？

フォーラム・セミナー報告

「第3回KU-COILワークショップ・国際シンポジウム」を開催しました

日程：2017年12月1日(金)～3日(日)
場所：尚文館 マルチメディア AV 大教室ほか

千里山キャンパスで2017年12月1日～3日、国際部がCOIL (Collaborative Online International Learning) を活用した教育実践の効果の検証、学内外の教職員の理解促進を目的に第3回 KU-COILワークショップ・国際シンポジウム「CONTEMPORAL PEDAGOGY AND ASSESSMENT METHODS IN INTERNATIONAL EDUCATION」を開催しました。

COILとは、情報通信技術 (ICT) ツールを用いて、海外の大学に属する学生達とバーチャルに連携しながら、様々な分野のプロジェクトに取り組む新しい教育実践の方法です。本学では、2014年に全国に先駆けてCOILを導入しています。以来、世界10カ国・18大学のネットワーク (2017年12月現在) を活用し、現在開講中のものを含め、過去総計で延べ46科目

でCOILを活用した授業を実施してきました。

今回のワークショップ・シンポジウムでは、文部科学省高等教育局国際企画室室長補佐の堀尾多香氏や駐大阪・神戸米国総領事のカレン・ケリー氏をはじめ、国内外から教育の国際化における有識者を招き、COILに関する本学におけるこれまでの取り組みおよびその成果について広く学内外へ発信しました。また、期間中はグローバルFDワークショップとして「英語による科目開講 (EMI) 少人数クラスのプランニングとマネジメント」も開催し、ブリティッシュカウンシルと協働で「英語で」開講する科目のプランニング、教授に必要な英語、学生を導く手法等について研修が行われ

ました。台湾、メキシコ、アメリカ、ノルウェーといった世界各国からもCOILの取組に関心を持って参加いただき、今後本学のさらなる海外大学との連携の強化、国際教育の取組の促進につながる3日間となったと実感しています。

(国際部 池田佳子)



国際シンポジウムの様子

「教職員と学びあう Learning Café with Staff」を開催しました

日時：1月30日(火) 15:00～17:00
場所：総合図書館ラーニング・コモンズ内 ワークショップエリア

教育開発支援センターFD/SD連携プロジェクトでは、「自分を“Switch”するきっかけを見つける—大学生活を一步前に—」をテーマとして、「教職員と学びあう Learning Café with Staff」を開催しました。

この取組は、今年度実施した「SD研修プログラム」を受講した職員が、研修の一環として行った教育・学習支援の改善策の提案を、具現化させたものです。さまざまな事務部署に所属する職員が連携して、学生にとって「学生生活を通じて自分の強みやコミットできる活動を見つけるきっかけづくり」となる取組を企画しました。参加した学生が、①少し先の社会のイメージ、②残りの大学生活の目標設定、③目標につながる学内の活動に関する知識習得、といったことができることを目指しました。

当日は、学生と教職員が同じテーブルを囲み、ミニレクチャーやグループワークが行われました。ミニレクチャーでは、大学生活4年間の時間の使い方や、夢や目標について考えるために持つべき視点などについて解説がありました。その後、自分自身のコミュニケーションスタイルに関する簡単なテストを行い、その結果について他者と議論しました。自分自身を他者と相対化して見つめ直すとともに、多様なコミュニケーションスタイルに関する理解を深めました。さらに、留学やキャリア支援といった、学内の学習・学生生活の資源を紹介することにより、部局横断型の「きっかけづく

り」の機会となりました。

参加者からは「改めて自分を見つめなおして、新しい一面にも気づくことができた」、「親しみ易く、居心地が非常に良かった」といった意見がありました。

(教育開発支援センター事務局)



ミニレクチャーの様子

Learning Caféを開催しました

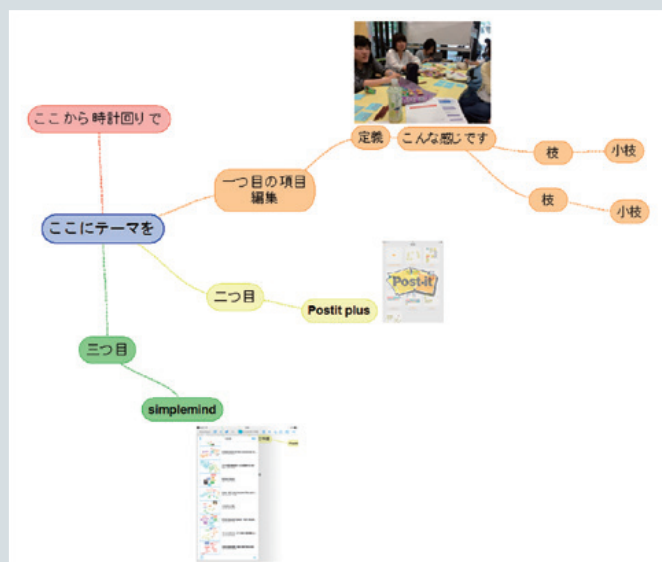
日時：2017年12月8日(金)11:00～12:00

場所：凜風館1階 コラボレーションコモンズ ラーニングエリア2

12月8日にスマホの教育用アプリを使って効率よく学習を進めることをテーマにLearning Caféを行いました。具体

的には、入手した知識・情報の整理に焦点を当てて、グラフィックオーガナイザー・ツールとしてのスマホアプリやクラ

ウドサービスを活用したファイル共有の方法を受講者とともに演習しながら学んでいきました。



SimpleMind+® 表示例



Post-It® Plus 表示例

ポストイットを使ったブレインストーミングのツール、Post-It® Plusを使って抽出したアイデアを整理・編集する方法(上記のマップ参照)と、ノートテイキングや情報整理で役立つスマホのアプリ、SimpleMind+®(上記のマップ参照)

の活用法を共有しました。個々人のスマホアプリで行った学びの成果を、クラウドサービスを使って、仲間と共有する方法や学内で既に導入されているOffice365(クラウドサービス)を通して、ワードやパワーポイントファイルを仲間と

共有・編集する方法についても紹介しました。

参加者は学生3名、教員・職員3名でしたが、終了後、参加者からは次のようなコメントがありました。

【参加の理由】

- ・ラーニングCaféに興味があった
- ・いろんな学生と知り合いたかった
- ・将来的に役立つと思った

【満足した点】

- ・チームのみんなで目標を達成できたので。
- ・少ししか参加はできませんでしたが、少しだけでもとても役立つことを学べたから。
- ・wordだったり 아이폰を使用しているいろいろ知ることができた。
- ・知らなかった関大のメールを知ることができた。ワードで作成した資料を友達や先生と共有できる便利さを学べました。
- ・KUメールを自分のケイタイメールに転送する方法
- ・普段あまり使わない機能を知ることができた。

【感想】

- ・楽しかったです。

今後もICT活用教育の質向上を目指して、Learning Caféに取り組んで行きたいと思います。

(教育推進部 山本敏幸)

Learning Caféを開催しました

日時：2017年12月1日(金) 14:50～15:50

場所：凜風館1階 コラボレーションコモンズ ラーニングエリア2

今回のテーマは、「性格とはなにか!? ～心理学の視点で自分を知る～」でした。春学期に続き、心理学をテーマとしたラーニングカフェは2回目でした。心理学で実際に使われている心理テスト(Big Five)を、自分で回答して、自分で評価するところまで体験してみました。Big Fiveの情動性、外向性、開放性、協調性、誠実性の5つの視点から自分の性格を探っ

てみました。そして、心理学において心理検査がどのような観点から作成されているのか、心理検査の主な種類とともに説明しました。最後に、遺伝と性格の関係について、性格がどのくらい生まれつきであり、どのくらい育てられ方によるのか、これまでの心理学における研究をいくつか紹介しました。また、集団における性格の現れ方に関して、他者との関係で

の性格の話もしました。参加者の感想には、「心理アセスメントには様々なものがある」、「新しい知識を得ることができてよかった」、「心理学のテーマをもう一度してほしいです」などがありました。心理学という学問の観点から、自分の性格について改めて考える一つの機会となったようでした。

(教育推進部 紺田広明)

共通教養での学部横断型プロジェクト学習が始まります！

共通教養では、これまで「スタディスキル」においてプレゼンテーションやノートの書き方などのアカデミックスキルの獲得を目指し、学部共通の初年次教育を展開していました。しかし学習指導要領の改訂によりアクティブラーニングが高校の課程で必須になることで、アカデミックスキルも経験する学生が増えてくると予想されます。

そこで2018年度より、「スタディスキルゼミ」の授業数の半分以上を、より大学での主体的な学びに近く、学ぶことへの動機

づけを高めるプロジェクト学習に変更しました。

プロジェクト学習は、課題基盤型学習とも呼ばれ、国内外の高等教育で普及している学習方法です。学習者は、与えられた課題または自ら発見した課題に対して、グループに分かれ、課題解決に向かって活動します。学生同士、学生と担当教員との密接なコミュニケーションが特徴です。

2018年度は「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」という大きな3テ

マのもと、主に1年生向けの初年次教育として、「プロジェクト学習1」が春・秋学期合わせて46授業開講されます。

そして2021年度からは基礎的な専門を学んだ3年生以上を中心とした産学官協働の「プロジェクト学習2」もスタートします。

関西大学ならではの学部横断型プロジェクト学習において、「考動力」の育成を推進していきます。

(教育推進部 森 朋子)



大学業界では「教職協働」が叫ばれて久しいが、必要性を感じながらも実際の取組には至っていない大学も多かったのではないだろうか。そんな中、大学設置基準の改正により、「教職協働」が初めて条文化された。

条文化に至った背景として、大学運営の複雑化や高度化、大学ガバナンスの強化、教育研究の周辺領域(学生支援、入試、教学マネジメント)の拡大、教員の多

忙化等が挙げられる。

こうした変化に伴い、大学職員に求められる資質も従来の「事務」的業務に関するものだけでなく、より経営面での貢献に関わるものも求められるようになった。

先日、他大学職員との勉強会で、教員と職員の「境界線」について議論を行った。当然ながら、専門知識や研究力に基づく学生への教授は教員の重要な役割である。しかし、こと大学経営において、教員が担うべき役割が時代の変化に即

しているのか、職員が担うべき領域はどこまで広げるべきかという問題が前提にあるのだが、そもそも「誰のための大学経営か」を考えたとき、教員、職員という境界線は意味を成さないという結論に至った。

他でもない「学生」のために、教職員が一致団結して働くことが教職協働の意義であり、「学生のための業務」を縦割りにする必然性はないと捉えたとき、教育開発支援センターの一員としてまだまだできることは多いと感じた。(健)



KANSAI
UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2018年3月28日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター